

## 八代のよさをもっと 知ってもらいたい

寺本 美香 さん (田中西町)



「思いついたらやってみないと気がすまない」と語るのは雑貨店代表の寺本美香さんだ。生まれ育った八代や妙見祭、日奈久をテーマとしたオリジナルマスキングテープを販売し、全国のお客さんやコレクターから注文が殺到している。

「八代は自然や文化、歴史も兼ね備えた土地。その価値を学問的に説明・講義するのではなく、おばあちゃんから昔の話を聞くように、毎日の暮らしの中で感じ取ってもらいたい」との思いから作成した。

これらのマスキングテープは既存の絵画を使わず、市内在住の作家と協力し、八代の魅力を伝えるオリジナルデザインとなっている。

寺本さんは高校まで八代で暮らしていたが、当時は八代の魅力について考えたこともなく、自分の故郷ふるさととしか思っていなかったそうだ。高層ビルが建ち並ぶ県外の大学への進学をきっかけに、心境が変化。「八代の良さは、広い空と大地の広がり、そして山も海も川もある自然豊かな環境。都市部では感じるできないこのロケーションは特別なもの」と寺本さんは語る。

大学では中国と日本の文化のつながりに興味があり、国際文化学科で中国文化を勉強。そこで1冊の本と出会う。天文暦について調べている文献の中に八代妙見信仰の記載があり、自分の故郷とのつながりを嬉しく思った。そのときの印象は今でも強く残っているそうだ。

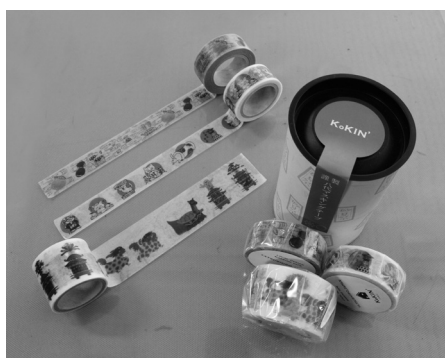
大学卒業後は中国に留学し、さらに知識を深めた。その後、八代に戻り雑貨店で働いていると八代の暮らしのスタイルを考えようになり、独立を決意。『暮らす土地

に根付いた生活スタイル』をお店のコンセプトとして活動を続けている。

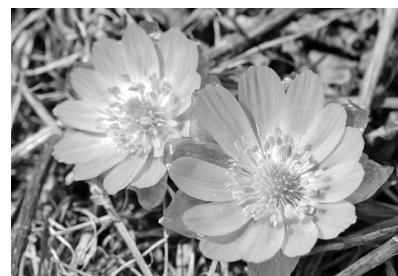
八代や熊本に関する商品をセレクトすることで、『八代に住んでいる人には地元の魅力に気づいてもらったり、旅行できたお客さんには八代の思い出のお土産になったりする』と考え、大型店やチェーン店にはできない、個性をいかしたお店づくりに日々奮闘中だ。

また、熊本地震後は県内の作家と協力して、『Od' ma shitto ru (オドマシトル)』という八代の方言で『私たちは知っている』と名付けたブローチの制作販売に取り組み、売上金の一部を義援金として寄附する活動も行っている。同時に、「熊本の若い陶芸・革・木工・編み物・刺繍作家などの個性と作品を多くの人に見てもらいたい」と話す。

今後の展望について、「八代や熊本の雑貨の品揃えはまだ満足のいく数に達しておらず、やっとスタート地点に立ったところだ。時間はかかっても頭の中の理想を現実近づけたい」言葉の一つ一つに故郷愛が詰まっている寺本さんの挑戦はこれからが本番だ。



▲妙見祭や日奈久をモチーフにしたマスキングテープ



2017.FEBRUARY

No.146

- 3 冬季特別展覧会  
笠鉾大解剖 2
- 4 お雛祭り ひなぐ雛祭り
- 6 市・県民税の申告相談
- 8 ひとりで悩まず、ご相談ください
- 10 やつしろ元気体操
- 11 介護サービス利用までの流れ
- 12 国民年金保険料 前納・早割が得
- 13 市長への手紙
- 14 暮らしの情報
- 16 市民カレンダー
- 18 暮らしの情報
- 27 広告
- 28 まちのわだい
- 31 伝言板
- 32 全国赤ちゃんハイハイ大会

### 今月の表紙



1月8日、厚生会館で「八代市成人式」が行われ、華やかな振り袖やスーツ姿の新成人1218人(男553人、女665人)が大人への門出を祝いました。会場では友人との再会を喜び、写真に収める姿が多く見られました。